

■杉村春子 舞台俳優。〔文学座〕創立時からの中心、「女の一生」ほか、多くの当たり役で、日本を代表する女優に。

すぎむらはるこ

満鉄発足・・・1906＝ 広島市中区土橋町で生まれ、事業家中野榎松の養女となる。本名中野春子。養母ヤスは置屋を担当。

明治天皇没・・・1912＝ 6歳：

芸者に囲まれ、養父が広島一の劇場〔寿座〕の株を持っていたことから、養母に連れられて、歌舞伎・新派・文楽・新劇・オペラなどを度々観劇して育ち、

本格政党内閣1915＝ 9歳：

ロシア革命・・・1917＝11歳：

養父が急逝するが、養母が置屋を続け、資産もあったことから、この年、〔寿座〕で松井須磨子の「復活」公演。小学校を卒業して、名門山中高等女学校に入学、2年の時、悪意ある教師の発言で、自分が養女と知る。以後、自立を志すようになり、知られたら退学というのも気にせず、〔寿座〕通いを続け、例外的に学校から教師引率で観劇したのは宝塚歌劇団の広島公演、学校で劇を演じる機会が訪れるや、主役となり他の生徒を圧倒。

原敬首相暗殺1921＝15歳：

水平社結成・・・1922＝16歳：卒業。声楽・ピアノ師事した教師の縁で個人教授につくなど、東京・広島間を往復しながら勉学、

護憲三派圧勝1924＝18歳：東京音楽学校を受験するも失敗、

治安維持法・・・1925＝19歳：再び失敗、偶然舞い込んだ広島女学院の代用教員を務め、まだ中学生の長広岸夫に出会うなどするうち、

円本時代始・・・1926＝20歳：〔築地小劇場〕のことを知り、丁度広島公演にきたを見てその新しさに驚きながらも、応募、

金融恐慌・・・1927＝21歳：音楽の勉強と偽って上京、〔築地小劇場〕研究生となる。「何が彼女をそうさせたか」のオルガン弾き役に杉村春子の名で初舞台。広島なまりのため、せりふはなかった。他方〔黎明〕で映画初出演、以後多数。

共産党事件・・・1928＝22歳：「伯父ワアニヤ」で初の大役得るも、劇団としては失敗、経営に行き詰まるなか、小山内薫が急逝し、

世界恐慌・・・1929＝23歳：劇団が分裂、残留組の〔劇団築地小劇場〕で、トップ女優だった田村秋子の代役くもも評価されず、

海軍軍縮条約1930＝24歳：〔劇団築地小劇場〕はさらに分裂し、解散となる。

満州事変・・・1931＝25歳：所属する劇団なくなり、無為に過ごす間、上京してきた養母と同居。幼馴染長広岸夫と恋愛関係になり、

五一五事件・・・1932＝26歳：\*友田恭助・田村秋子夫妻が興した〔築地座〕に参加し、「牛山ホテル」で初めて演技が絶賛され、開眼。

国際連盟脱退1933＝27歳：まだ大学生だった長広と駆け落ち結婚、以後、学費支援、

芥川直木賞始1935＝29歳：〔築地座〕は反岸田国士派の脱退事件が起きた後、「秋水嶺」での朝鮮人女役が絶賛されなどするが、

二二六事件・・・1936＝30歳：夫が大学卒業。田村が肋膜炎となり、岸田の勧めで、〔築地座〕は解散、新派に客演する一方、翌年公開される島津保次郎監督「浅草の灯」で映画でも初めて大役で出演し好評、

日中戦争始・・・1937＝31歳：岩田豊雄の首領で、田村夫妻中心の〔文学座〕創立に参画、直後に友田が召集されて戦死、田村も退去、

健保+総動員 1938＝32歳：〔文学座〕第1回公演に森本薫作品が登場。花柳章太郎らによる新生新派の旗揚げ公演「島」に出演、

大政翼賛会・・・1940＝34歳：\*豊田四郎監督「奥村五百子」に初の映画主役。錚々たるメンバー揃った山田耕筰作曲のオペラ「夜明け」に出演などする間、有力劇団が解散させられたこともあって、田村不在の〔文学座〕がようやく確立、パニョル「ファンシー」で初めて若い娘の主役を演じ好評。以後、その中心的存在となって活躍、

日米開戦・・・1941＝35歳：

・・・1942＝36歳：結核が進行した夫が死去。

敗戦・・・1945＝39歳：混乱のなか、森本薫が春子のために書き下ろした「女の一生」の布引けい役を初演するが、敗戦となり、

新憲法公布・・・1946＝40歳：木下恵介監督「大曾根家の朝」、黒沢明監督「わが青春に悔いなし」で映画再開するも、〔文学座〕は低迷、

新憲法施行・・・1947＝41歳：養母が死去。\*窮地のなか、「女の一生」を演じるや大ヒット、都民劇場新劇コンクールで一位、

極東裁判決・・・1948＝42歳：孤独を癒すように、GHQの文化担当日系アメリカ人と懇意になる。大入り続け、戦後復活した第一回芸術院賞受け、最大の当たり役として晩年まで主演続けて行く。映画も「晩春」以降、数多くの名作に出演、

三大事件・・・1949＝43歳：田村秋子が復帰して、影が薄くなった上、リユーマチを発症、生涯唯一回自ら降板して入院、戦中に知った石山季彦に治療うけたことで急接近し、

朝鮮戦争始・・・1950＝44歳：再婚。念願の稽古場(アトリエ)が完成し、福田恆存らが参加してきたことで、〔文学座〕に活気、

独立回復・・・1951＝45歳：ジャン・コクトー「声」に出演。「麦秋」でブルーリボン賞助演女優賞。

TV放送始・・・1953＝47歳：「欲望という名の電車」のランチ役は好評、以後594回。「東京物語」で毎日映画コンクール助演女優賞。

自衛隊発足・・・1954＝48歳：著書「楽屋ゆかた」。大阪の勤労者演劇協会の調査で、〔文学座〕支持一位、「好きな俳優」杉村春子トップ。

55年体制始・・・1955＝49歳：田村が退座して、再び天下に。

国連加盟・・・1956＝50歳：アジア連帯委員会の文化使節団員として、ソ連・中国ほかを歴訪して気分転換、以後、度々海外に出るようになる。福田と入れ替わりに入座した三島由紀夫が春子のために書いた「鹿鳴館」の影山朝子伯爵夫人役は、誰もが認める演技となり、日本を代表する大女優となる。

インスタントメン・・・1958＝52歳：NHK放送文化賞。

安保闘争・・・1960＝54歳：訪中新劇団の副団長として「女の一生」を中国諸都市で公演、

タイタイ病始・・・1961＝55歳：平和七人委員会の創立に誘われるなど、社会的立場が明確になって行く。

TV宇宙中継始1963＝57歳：芥川比呂志ら29人の脱退に続き、

東京リビウ 1964＝58歳：三島由紀夫「喜びの琴」上演拒否に端を発した三島ら14人の脱退という創立以来最大の危機を迎えたが、若手を育成し、率先して舞台に立つことで克服、逆に力を発揮し、杉村体制が築かれて行く。

大学紛争始・・・1965＝59歳：前年日中文化交流協会代表団に参加したのに続いて、第二次訪中新劇合同公演では副団長。

いざなぎ景気1966＝60歳：夫の病状悪化し死去。最後の介護を引き受けていたヒロを養女にする。

震ヶ関ビル・・・1968＝62歳：「いよいよ女の一生」打ち止めということで全国縦断巡演、いずれも記録的大入りで、

全共闘ビュ・・・1969＝63歳：自叙伝「自分で選んだ道」。朝日文化賞・毎日芸術賞。

大阪万博・・・1970＝64歳：有吉佐和子「華岡青洲の妻」に主演、以後、634回、

映画においても、屈指のバイプレーヤーとして有名監督の主要な作品多くに起用され続ける。

日中国交回復1972＝66歳：有吉佐和子「ふるあめりかに袖はぬらさじ」に主演、以後、365回。

石油ショック1973＝67歳：この間、他の公演の不調などもあって〔文学座〕の財政悪化、解散意見に決意し、「女の一生」を再開、

角栄金脈辞任1974＝68歳：「怪談牡丹灯籠」、文化功労者。この年始まったTBS「おんなの家」シリーズはじめ、テレビ出演も多い。

JALハイジャック・・・1977＝71歳：「華々しき一族」に出演。

成田衝突・・・1978＝72歳：

この前後、山田五十鈴との競演が話題に。

貿易摩擦問題1980＝74歳：自叙伝「舞台女優」、

・・・1981＝75歳：森田たまパイオニア賞。新劇訪中団副団長、

中曽根内閣・・・1982＝76歳：文学座の創立45周年記念で、「ふるあめりかに袖はぬらさじ」に主演。

テレビコラント・・・1983＝77歳：「女の一生」734回に達する

再び新派にも出演するようになり、

自叙伝「ふり返るのはまだ早い」、

バブル始・・・1986＝80歳：

竹下内閣・・・1987＝81歳：

ドイツ統一・・・1990＝84歳：老齢のため「女の一生」934回をもって打ち止めとなるも、なお中国訪問に熱意、公演・出演も続け、

ソ連崩壊・・・1991＝85歳：芸術祭賞、

バブル崩壊・・・1992＝86歳：後継者と目されていた太地喜和子が事故で死去。紀伊国屋演劇賞、東京都名誉都民。

55年体制終・・・1993＝87歳：TBS「おんなの家」シリーズ終り、橋田寿賀子賞(第1回・特別賞)。

ウチムリノ事件・・・1995＝89歳：文化勲章、芸術院会員、石川県名誉県民を辞退、「怪談牡丹灯籠」を再演し、

・・・1996＝90歳：\*「華岡青洲の妻」「華々しき一族」出演に最後の力を振り絞ったが、

金融破綻・・・1997＝91歳：膵臓癌に冒され没した。

中丸美繪「杉村春子」、「この人どんな人」、「日本の女性」、